

高等学校向け住生活出前授業「自分に合った住まいの選び方」授業例

- ・ 高等学校家庭科で行う「ライフステージに応じた住居の選択」の授業について、宅地建物取引士を外部講師とした場合の授業例
- ・ 使用ワークシート：「青森県住まい・住まい方読本」20頁（A3版各班1部）、21頁（A4各自1部）

	分担	項目	内容	時間	留意点
導入	教員	本時の目的	<ul style="list-style-type: none"> ■本時の授業の目的について説明。 ・例)物件探しを通して、平面図から情報を読み取り、自分の生活を描き、生活の場としての住居の条件を考えてみよう。 	3分	
展開	教員	ゲストティーチャー(以下、GT)の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ■教員がGTを紹介。自己紹介も兼ねGT挨拶。 ・GTの役割を説明する。(自分に適した物件を選ぶように、専門家の視点からアドバイスをしてもらう) ・GTは職業に就いたきっかけや職業の魅力などを交えて自己紹介をする。 	5分	<ul style="list-style-type: none"> ■職業観育成のきっかけとなるよう意識することが望ましい。 ■GTは生徒に対して平易な表現(専門用語を避ける)で話す事が望ましい。
	教員	前時のふりかえり 物件選び演習	<ul style="list-style-type: none"> ■前時とのつながりについて説明。 ■ア)自分が物件を選ぶ条件を考えてみる。 ・就職や進学で一人暮らしをするとき、どうやって住まいを選ぶか。自分が選ぶ時の条件とその理由を3つ考える。(WS記入) ■イ)グループ内で共有する。 ・自分の条件が決まったら、グループ内で話し合い、これは欠かせないと思う条件を設定する。(WS記入) ■ウ)設定した条件に合った物件を選ぶ。 ・グループで設定した欠かせない条件に合う物件を資料の中から選択し決定する。(WS記入) 	12分	<ul style="list-style-type: none"> ■前後の授業を関連付けることでより学習効果が上がると考えられる。 例)前:さまざまな住まいと暮らし方 ■ア)個人で検討させ、個人の条件が決まった後、イ)ウ)グループ内で話し合い・検討をさせる。 ■グループ演習の際は、必要に応じグループを巡回し議論が活発となるようきっかけを与えることが望ましい。
	教員	グループ発表	<ul style="list-style-type: none"> ■各グループに発表させる。 ・グループ内で話し合っ決定した物件と、その物件を選んだ理由を発表する。 ・発表内容に対して、GTから助言する。 例)収入と家賃の関係、物件情報の読みとり方 等 	10分	<ul style="list-style-type: none"> ■全グループの発表後にGTからコメントをもらう方が偏りがなくなると考えられるが、グループ数が多い場合はGTと事前に協議されたい。
	G T		講評・アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ■GTから全体講評をもらう。 ・生徒の発表に対して、良かった点や不足していた視点等物件選びで失敗しないための助言をしてもらう。 ■生徒からの質問 ・物件選びに関する疑問や知りたいことを質問させ、GTから回答する。 	10分
まとめ	教員	物件選びを体験して変わったところ	<ul style="list-style-type: none"> ■助言を受けて、物件選びの再確認 ・自分の考えた条件に合った物件を選べていたか再確認する。 ■印象に残ったところ、今後に活かしていきたいところ ・本時を通して気づいたところ、今後の生活に活かしたいところを考える。(WS記入) 	5分	
		ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ■意見を共有する。 ・本時を振り返った意見を発表する。 	5分	